

 佐原 真 元埋蔵文化財センター長逝く

「おはよう 佐原です。ちょっと、教えて欲しいの
だけど」

佐原コールで知られた佐原真氏が、7月10日朝
逝去された。7月20日のお別れ会には、1千人以上
の人々が訪れたという。

昭和39年入所の「花の三九組」として、長く研
究所に勤務・活躍された佐原氏の業績について、改
めて申し上げる必要もないでしょう。考古ボーイと
して出発した佐原氏が、縄文時代を手始めにさまざ
まな分野に領域を広げ、考古学者として大成されこ
とは異論がないところ。その活動の源はご自身の努

力ですが、それとともに誰にでも、気軽に教えを請うという謙虚さも忘れることはできません。

朝夕を問わない佐原コール。その経験は少なくないでしょ。国立歴史民俗博物館副館長を経て館長職に就いてからも、そして昨春は入院先の病室からでも。

これとともに見過ごしてならないのが、常に新鮮さを失わない知識欲、子供のような豊かな感受性でした。

「すごいね、すごいね。いろんなことが分かってきたんだね。」

未知への新鮮な驚き、食欲なまでの知識欲は奈文研時代の誰しも目にしたところですよ。こうした謙虚さと豊かな感受性は、佐原さんの学問を支える両輪だったのでしょう

「稔るほど 頭を垂れる 稲穂かな」

佐原さんのためにある格言のようです。こうした努力が、佐原さんを大考古学者の高みへと誘ったのでしょう。

普通ならここでご冥福を祈る、と言うべきでしょう。しかし、佐原さんのこと。新しい世界でもきっと、活躍されるでしょう。佐原コールもまた、復活するのに違いありません。

「ちょっと遠い所なので、なかなか通じないのだけど。今、いいかな・・・」と。

新世界での、今後のご活躍を祈念して。合掌。

(平城宮跡発掘調査部 金子裕之)